

【緑地の樹】

コナラ(小檜)

第一公園から「西緑地」へは小径をたどります。その小径の終わるところに「花広場」があり、正面に「こなら」の木が見られます。まるで一本の大樹のように見える株です。この「こなら」が四季折々に変幻に姿を変え魅了してくれます。

早春には有るか無きかの色を樹全体にまとい、芽ぶきと共に日々に色を増し、やがて眩しい新緑が現れます。夏はさわやかな緑の葉が茂り、活力に充ちた樹勢は見るからに頼もしいものです。秋は一日のうちに何度も違った姿を見せてくれます。朝は色づき始めた葉を光の中に”こがね色”に輝かせ、夕方には沈みゆく太陽の紅色をまとってひときわ色を増し、刻々と変化し、やがて夕闇の中に黒くつきりと大樹となったシルエットを現します。

冬はすべて葉を落とした裸の枝を冷たく澄みきった天空に突き立てて、凜としてゆるぎない姿で立っています。



プロフィール：ブナ目 ブナ科 コナラ属

緑地の花広場につきあたりにそびえているほか、中央広場入り口の林にも何本も立っています。

昔、「こなら」は「くぬぎ」とともに薪や炭の原料として、また落ち葉は腐葉土として田や畑の肥料となり、直接生活に結びつく大切な存在でした。今、緑地の「こなら」はうつりゆく四季の中に、自然の力強さ、美しさを教えてくれています。

追記：残念ながら現在一部枝の剪定が行われ、姿を変えてしまいましたが、何年かのちにはまた美しい姿に戻ることでしょう。

(斎藤泰子)

